転校生になろう！

くまかんず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転校生になろう！

【Ｎコード】

Ｎ４４８１Ｄ

【作者名】

くまかんず

【あらすじ】

「転校生」をしたい。そんな気持ち、みなさんにもありませんか？

1話

転校生って、どんな物語にもぴったりな役。
転校生が超能力だった！とか、異世界の人だった！とか、ファンタジーにはお決まりで。

誰でも一度はあこがれるけど
大きくなったら忘れてしまう
サンタさんを信じる心のようで

そんなのに憧れ真っ盛りな小学６年生。

私、原茂美樹（はらしげみき）。

お母さん、あと3ヶ月で小学校も終わりです。私立の小学校を受験したら、受かりました。お母さん、私受かったよ？すごいでしょ？しかも転校生になれるんだよ？

それなりにお嬢様だった美樹は、春から私立の中学校に通うことに

なった。
寒い北海道を離れ、母のいる東京に引っ越すことになった美樹だったが、なぜか1ミリも不安はなかった。人はどんな時も不安が付きまとう。

不安がないのは、幼い証拠。

「京北中」と呼ばれるその学校は、東京では公立と変わらない雰囲気で、かえって人気の学校だった。勉強よりも心の育成を大切にし、生徒は皆落ち着いていて、校舎もきれいだという。
「健全な教育」が売りの学校だった。
母の元に行きたいだけで、北海道の小学校に不満は一切なかった美樹にとっては、京北中は最適な環境となるはずだった。

1話（後書き）

どうでしたか？初投稿なので、このサイトの仕組みも、文章の書き方も全く分かりません。
これから頑張っていくつもりですので、どうぞよろしくお願いします。

2話

「美樹、おっはよぅ」

ちょうど言葉にしたらそんな感じの掛け声。

「春香ちゃん、髪切ったの？かわいいね」

「えー、そうかな？ありがと！」

なんだか嬉しそうな春香を見て、美樹はふと不安になる。

「ねえねぇ、もう美樹も転校しちゃうかもしれないし、一応みんなで買い物にでも行かない？」

誰からともなくそんな声が聞こえてきた。

なんで、買い物なんか…

京北中は、学歴を求めなかった。面接と試験の結果が５：５という、全国的にも珍しい学校だった。親もそれに納得して、子供もそれに納得した。それが「普通」だったから。

これで良かったのだろうか。

美樹はずっと迷っていた。こんな田舎だけど、友達はみんないい人で、一通りの施設は揃っていて、自然はたくさんあって。この街は、好きだった。

東京は、どんなところなんだろう。

――――――――――――――――――――――――――――――――

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

その週の土曜日、みんなで買い物に行くことになった。
みんなでいける最後の買い物。
明日は引越し。それに転校生になる。
ファンタジーに必要な要素は全て揃ってた。
別に、関係ないけど。

「ねぇ、何か映画でも見ようか？」
あれなんかどう？といって誰かが指差した映画は、「転校生になろうか」だった。
ケータイの小説から話題になった映画。まぁまぁおもしろかった。

「あれってどうなんだろ？」

「小説の方なら読んだけど、結構面白かったよ?あれもいいとおもうなぁ」

じゃぁあれ見ようか、と成り行きで、私たちは「転校生になろうか」を見た。
感想といえば、薄っぺらな純愛小説という言葉しか思い浮かばなかった。
それすらいえなくなってしまうほど・・・・

いや、なんでもない。

いろいろな店をまわって、最後に入ったお店は郊外の小さなケーキ屋さんだった。
地元でも話題のケーキ屋さん。小さくて、かわいかった。

なにやらみんなが店員さんと相談していた。
一通りケーキを頼み終わって、みんなが席に着き始めたので、私は急いで席に着いた。
最初に紅茶が運ばれてきて、次に小さいゼリーが運ばれてきた。
私は普段と違う雰囲気にやっと気がついて、友達に聞こうとした。
でも、聞けなかった。聞いてしまったら、この時間が終わるような気がした。

店員さんが何か大きなものを運んできた。
やっぱり何か違う。

それをテーブルにおいて、フタをあけると、チョコレートプレートの載った誕生日ケーキが。

「今日は誰の誕生日でもないよね？どうして？」

春香がおもむろに口を開く。

「美樹。転校しても、あっちで頑張ってね。これはみんなからのプレゼント！」

誕生日プレートなんかじゃ、なかった。

「みんな・・・・・・・・。ありがとぅ・・・・・ぁりがとぅ・・・・・！」

今までの自分。みんなを疑ってた。
みんなが自分の悪口を言ってるんじゃないかって。
そう。みんなも、自分も・・・・

「怖かったの・・・・・・。ごめんね、みんな、ごめんね・・・・・・！私、がんばるね・・！時々こっちにも来るからね！ありがとう・・・・・ありがとう・・・・・！」

みんなは、最後になって美樹が泣き出す事は予想できても、謝ったり、感謝したりすることは想定していなかったみたいだった。

みんながすごく戸惑った顔をしていて、すごく困っていた。
でも、それは私を友達だと思っていてくれた証拠。
みんな信頼しあっていた証。

だから、私は頑張ろうと思う。

2話（後書き）

こんなにつまらなくなるはずなかったのに…。絶望したw！

コメントをいただいたので修正しました。ありがとうございます！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4481d/

転校生になろう！

2011年1月24日20時35分発行